

夢なき者も成功あり

香芝市立香芝西中学校 2年 千原 沙英

私は、これと言った自分の夢を持っていません。将来の夢もまだ決まっていなし、何かこれを成しとげたいというアツイ気持ちもありません。しかし、私の周りでは、「将来、電車の運転手になりたい。」と幼稚園の頃から言い続けている友達や、「オーストラリアの大学に合格する。」という目標を持っているいともいます。私は、そういう人たちを見る度、すごいと思います。それは、「夢を持っててすごいな。」ということと、「自分の夢を人に宣言できる力と勇気があることってすごいな。」ということです。「自分の夢をもつこと」と「それを宣言すること」というこの2つは、到底生半可ではできないことだと私は思います。

今までの私は、明確な夢や目標がない自分が少し嫌いでした。多くの大人達は夢や目標を持たせようとしてきます。そして、必ずと言っていいぐらいに、夢や目標をもっている人をほめます。私はそういうことを聞いたとき、夢や目標を作らなければとあせってしまっていました。だから、そういう自分が嫌いでした。また、「夢なき者に成功なし」という言葉があります。私は「偉人の名言集」など有名な言葉や格言を調べるのが好きですが、そういう格言や名言に勇気づけられることもあれば、夢や目標がない自分をさらに嫌ってしまうこともありました。私は今、中学生ですが部活動に入っていません。だからといって、外部でクラブチームに入っている訳でもありません。「好きなことが夢や目標につながる」とよく言いますが、私は学校が終わると家に帰って、今日勉強したことを復習して放課後というものが終わるといった具合です。だから、「バレーボールで近畿大会に行く」というような目標をもつこともできませんし、「吹奏楽で強豪校を倒す」というふうに大きなライバルが存在している訳でもありません。

ですが、私は今、明確な夢や目標がない自分を少しも嫌いではありません。嫌いでなくなった理由には、おばが関係していて、将来の夢を考えるのが億劫だった私を変えてくれたことにありました。ある日、おばさんとお喋りをしました。そのときに、「部活は？」と聞かれたので「帰宅部」とだけ答えると、こう返ってきました。「へー。帰宅部なんや。じゃあ今から『やりたいこと』を見つけれるんや。いいな。可能性めっちゃあるやん。」と。そして、「将来の夢は？」と聞かれたので、「今のところ、ない。」とだけ答えると、こう返ってきました。「ふーん。なりたいものなんてこれから先びっくりするほどでてくるわな。」それは、私にとっては、すごくすごくうれしい言葉でした。

夢や目標を早く作ろうという考え方が良くなかったんだと私は思いました。夢や目標は「作る」ものではなく「見つける」ものだとは私には知りました。「夢なき者に成功なし」という言葉も、「今、私はやりたいことを見つけた期間だから可能性めっちゃあるからな。」と思うようにしてみました。夢や目標がないということは、したいことを見つけた時間がたくさんあるということです。そのしたいことが見つかるのか、たとえ90才になってからでもいいと私は思えるようになりました。

まとめると、私の主張はこうです。夢や目標をもって宣言することは、もちろんすごいけれど、夢や目標がまだ明確にない人も夢や目標を見つけた立派な期間をもっているんです。大人の人達が夢や目標をもたせたいのは「夢をもった方が良い」という考えがしみついているからかもしれません。でも、それはきっと「夢をもった方が良い」のではなくて、「夢を見つけてるって良い」ということなんだと、私は思います。